

るのバスについて

1. るのバスの利用状況

1) 月別日あたり平均旅客数

- ・2019 年中においては、最も利用が多かった 9 月で 161.6 人/日、最も利用が少なかった 5 月で 120.1 人/日の利用があった。
- ・2020 年は、国内における新型コロナウイルスの感染が拡大した 3 月以降大幅に減少し、最も利用が少なかった 4 月においては 66.0 人/日と、2019 年で最も利用が少なかった 5 月の 1/2 近い水準となっている。

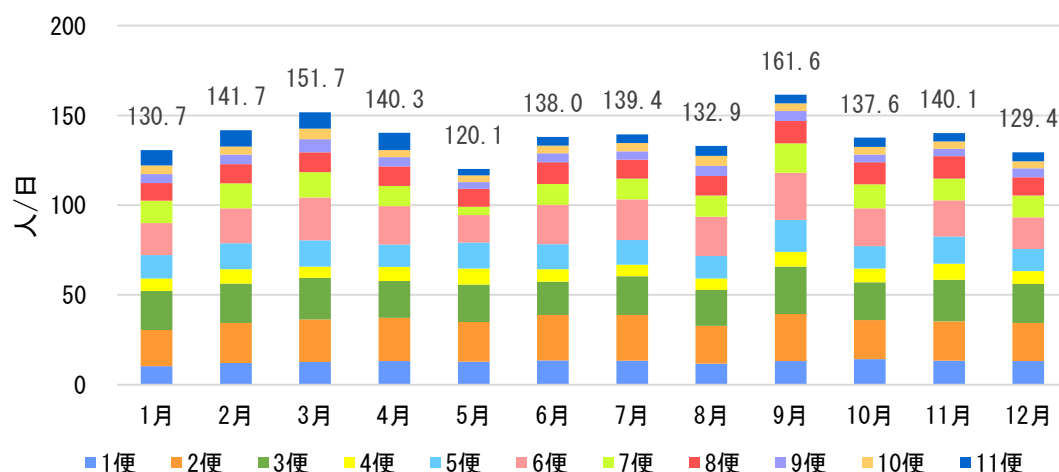


図 1 月別日あたり平均旅客数 (2019 年)

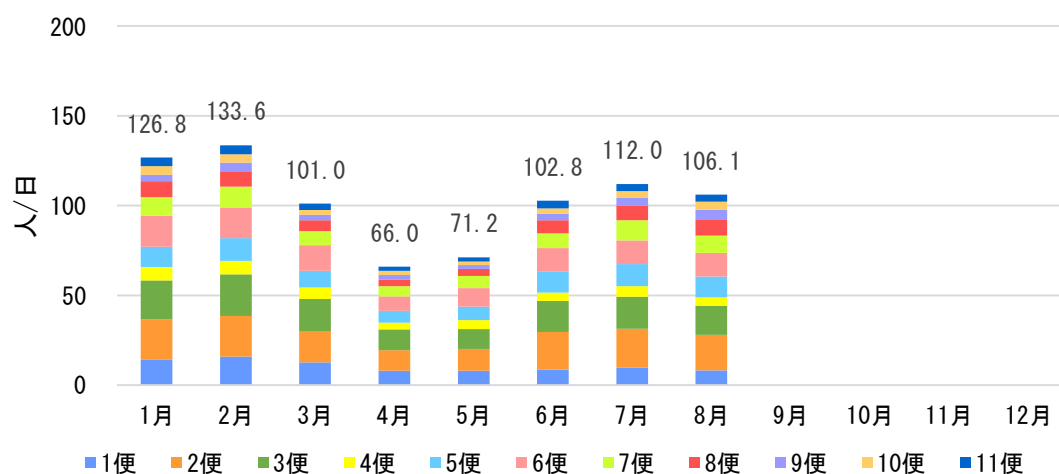


図 2 月別日あたり平均旅客数 (2020 年)

2) 月間旅客数の前年同月比

- ・近年5年間の月間旅客数を前年同月比でみると、2019年もほぼ年間を通して前年割れではあったが、2020年は、国内における新型コロナウイルスの感染が拡大した3月以降大幅に減少し、緊急事態宣言発令中（東京都内は4/7～5/25）に重なる4月、5月は大幅に減少している（4月：前年比0.49、5月：0.56）。
- ・2020年6月は、6/2から6/11まで「東京アラート」が発令されていたが、前年比は0.82と、やや持ち直している。
- ・2020年7月は前年比0.77、8月は同0.73となり、再び減少傾向がみられる。これらについては、新型コロナウイルスの影響のほかに、7月は梅雨期間中の多雨、8月は連日の猛暑により外出を控えた可能性が考えられる。

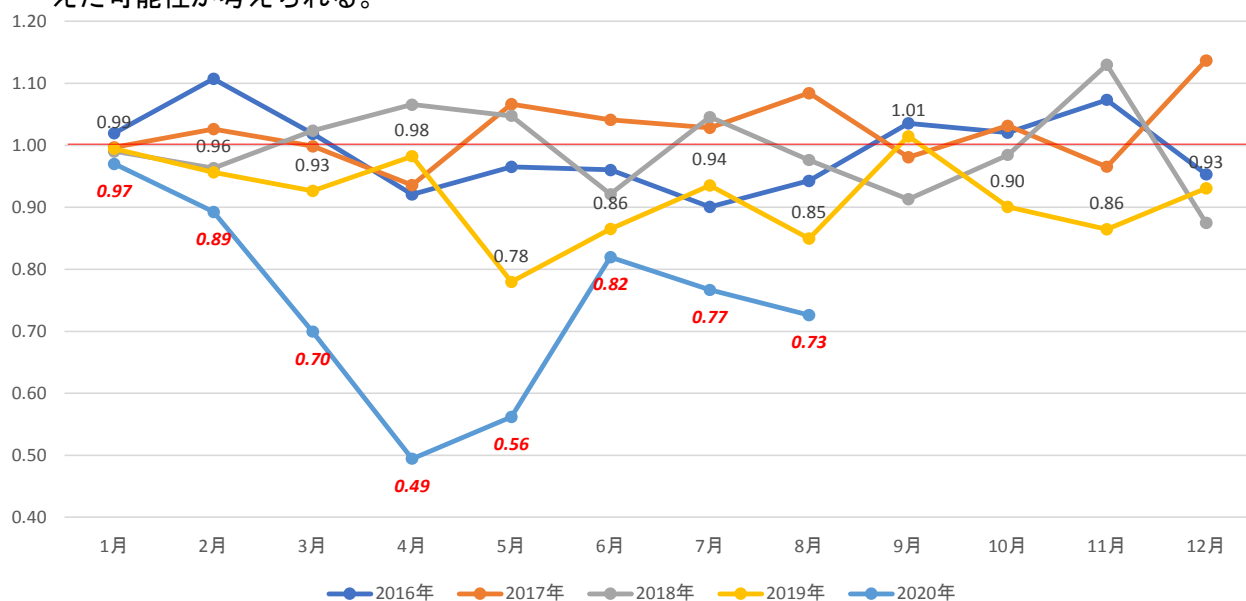


図3 月間旅客数の前年同月比

3) 近年の月間平均旅客数に対する2020年の水準

- ・2015～19年の月間平均旅客数に対する2020年の水準を見ると、2. で見たように4～5月は過去5年間平均の1/2以下まで落ち込んでおり、新型コロナウイルス感染拡大後最も利用水準が回復した7月でも、73.9%に留まっている。

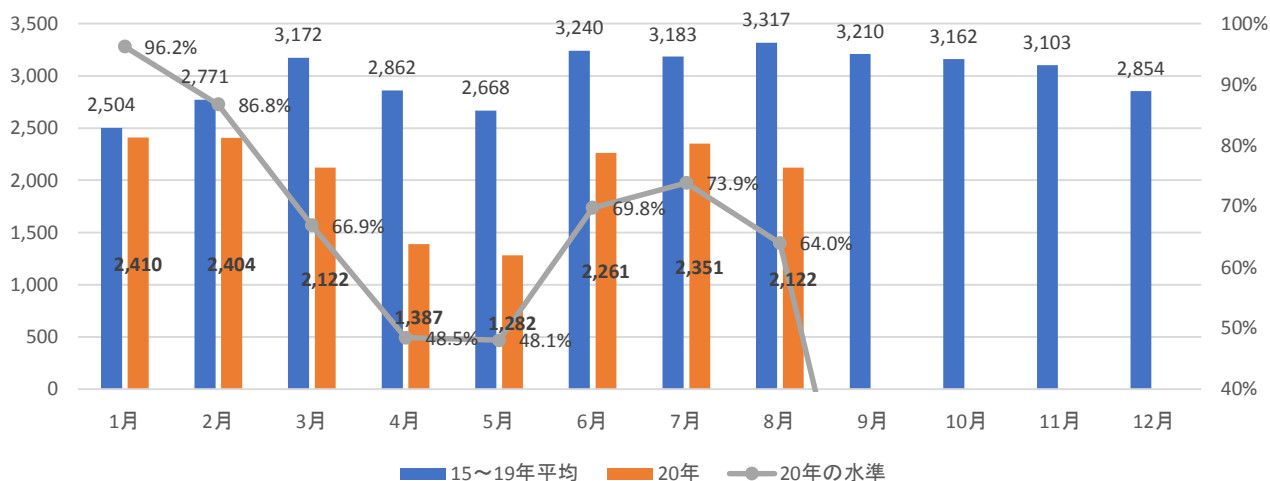


図4 近年の月間平均旅客数に対する2020年の水準

2. るのバス利用実態調査について

るのバスの利用者のOD調査¹を実施し、利用者の起終点等を把握する。

1) 調査日時

平日1日間調査する。

対象とするバスは、始発～終発間の全便とする。

なお、調査日は、夏休みなど学校の長期休業期間や市内での大規模イベント開催日を避けて設定する。
併せて、新型コロナウイルス感染拡大に伴って、に示した通り例年に比べて大幅に乗客数が減少していることから、乗客数が相応に回復したことを確認したうえで設定する。

2) 調査内容

調査日に運行しているるのバス全便の利用者を対象に、乗降バス停を調査する。

3) 調査方法

調査対象バス車両に調査員を乗せるなどして、バス利用者に調査票を配布・回収し、乗降バス停を把握する。

【具体の調査方法】

- ・調査日に運行するるのバス全便に、調査員を常時2名同乗させる。
- ・調査員のうち、1名は入口付近に、1名は出口付近に配置する（原則的に着席させない）。
- ・乗客乗車時に、入口側の調査員が、乗車地点と運賃区分に印を付けた調査票を乗客に渡す。
- ・乗客降車時に、出口側の調査員が乗客から調査票を回収し、降車地点に印を付けた上で便別の封筒に入れるなどして調査票が混同しないように整理する。
- ・調査員は、1回の連続乗車時間を概ね2時間程度とし、原則、JR秋川駅で交代させる。

調査票のイメージを図5に、調査結果の図化イメージを図6及び図7に示す。

¹ OD調査：人や車、物資の移動の起点 Origin と終点 Destination を、移動の目的、交通手段などとともに把握するために実施する調査で、起終点調査 Origin and Destination survey とも呼ばれる。ここで実施する OD 調査は、るのバス乗客の乗降バス停を把握することで、バス停別乗降客数だけでなく、どのバス停間での利用が多いか等を把握するものである。

るのバス乗降調査票

調査日：20年 月 日（ ）

五日市ルート

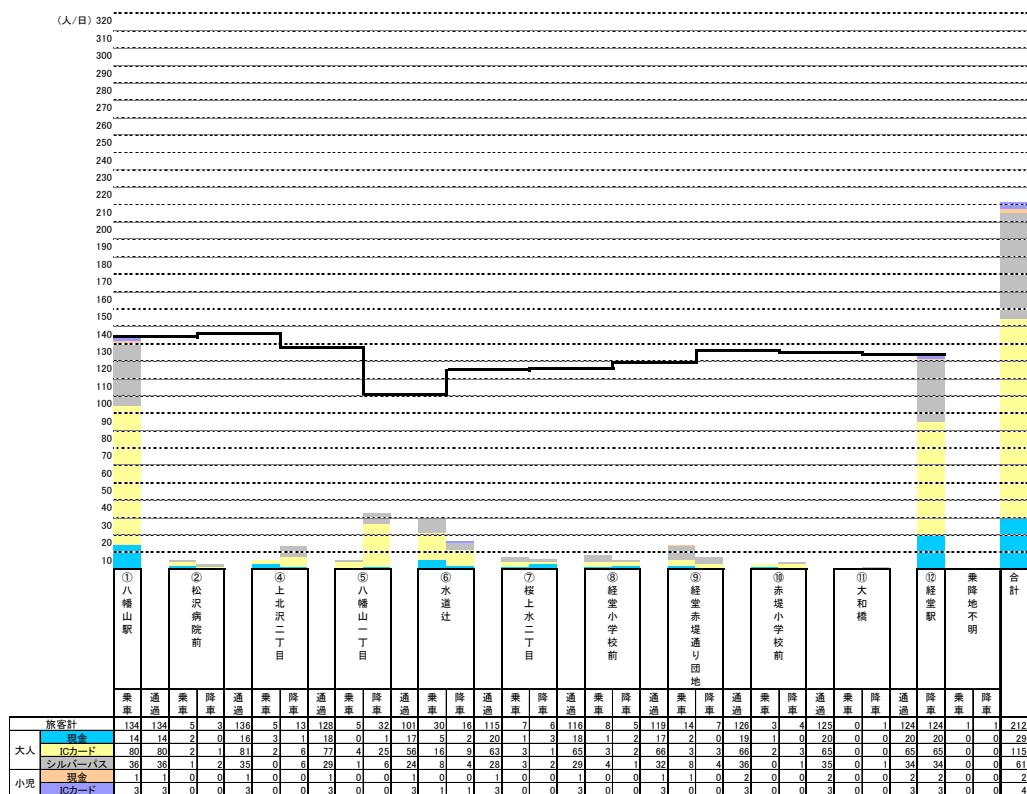
便名：〇〇

停留所名	乗車地	降車地
武蔵五日市駅		
東町		
五日市		
五日市出張所		
上町		
小和田		
留原上		
高尾		
三内		
横沢		
伊奈坂上		
伊奈		
伊奈新宿		
網代入口		
武蔵増戸駅		
五日市ファインプラザ		
山田		
東山田		
引田		
原店		
湊上		
代継		
秋川駅		

現：現金
回：回数券
高：運転免許自主
返納者用無料
乗車証

運賃区分 現・回・高

図 5 調査票イメージ（五日市ルートの場合）



【グラフの見方】

- 棒グラフは、各停留所での乗降客数（起点は乗車のみ、終点は降車のみ、途中停留所は左側が乗車、右側が降車）を示しており、色は料金区分（青：大人現金、黄：大人ICカード、灰：シルバーパス、赤：小児現金、紫：小児ICカード）の別を示している。
- 折れ線グラフは、起点から終点に向かって主にバス停間の乗客数を示している。したがって、バス停間の折れ線が右下がりになっていれば、直前のバス停で乗車より降車が多く、右上がりになっていれば降車より乗車が多いことがわかる。

図 6 調査結果図化イメージ（バス停別乗降客数）

出典：経堂駅～八幡山駅間バス実験運行路線利用者実態調査委託報告書（H24.3）弊社受託業務



【図の見方】

- ・各バス停位置に示された円の大きさが、当該バス停の乗降客数日合計の平均を示している。
- ・また、バス停間の線は、当該区間乗客を表しており、線幅が上下計利用者数を示している。
- ・なお、起終点である①八幡山駅、⑫経堂駅については中間バス停と乗降客数が大きく異なるため、中間バス停と同一レンジでの表示を避け、バス停名の下にそれぞれの乗降計を示した。

図 7 結果図化イメージ（利用バス停分布【乗降計】（平日平均））

出典：経堂駅～八幡山駅間バス実験運行路線利用者実態調査委託報告書（H24.3）弊社受託業務